

工業部会通信

相模原商工会議所
工業部会発行

編集
かながわ経済新聞社
代表：千葉龍太
〒252-0239
相模原市中央区中央3-12-3
TEL：042(851)2021
FAX：042(851)3532
プリントしてご自由にお読み下さい。



水素貯蔵プラント視察

千代田化工 次世代技術触れる 実証タンク

相模原商工会議所・新成長ビジネスGETプロジェクトは17日、次世代エネルギーとして注目される水素の貯蔵技術テーマにした現地視察を実施した。同技術の実証実験を進める、千代田化工建設の子会社オプティム・リサーチパーク（横浜市神奈川区）を訪ね、同社が進める水素エネルギーの大規模貯蔵輸送技術の実証プラントなどを見学した。

GETプロジェクト

地域製造業で構成されるGETプロジェクトでは昨年度、「水素の研究と産業利用の動向」や「燃料電池技術の現状と課題」など、計5回にわたる勉強会を開催。将来のビジネスチャンスの可能性を模索。現地視察に至った。

水素は、燃焼しても水しか発生しないことから「究極のクリーンエネルギー」とされる。水素を利用した家庭用エネルギーの普及を促すため、ENE-FARMの普及を促す方法がなかったため、利用法は小規模ベースに

千代田化工による技術説明



限られていた。視察した千代田化工の

実用化すれば、水素を大量、安定的に供給することが可能となり、都市ガスや火力発電用燃料としての利用できるようになる。

水素エネルギーが普及すること、将来の水素社会への道が開けるという。



終了後に横浜市開かれた懇親会の様子



視察に参加した工業部会GETプロジェクトメンバー

菅原モデル 胆道疾患の医療機器 得意技術で共同開発

ものづくり技術で疾患治療のリスクを低減。菅原モデル（相模原市中央区）は、バイオラックスメディカルデバイス（横浜市保土ヶ谷区）と連携し、胆道疾患の内視鏡治療と併用する医療機器を共同開発した。胆管は肝臓から十二指腸まで胆汁が通る細い管で、医療機器を挿入するには医師の熟練した技術が必要とされていた。共同開発した医療機器は、ものづくり技術を駆使して製作。胆管へのアクセスが容易にする。医師の腕に左右される胆管への医療機器の挿入は、



開発に携わった菅原社長

誤つてすい臓へ機器が入つてしまい、すい炎を引き起こすリスクなどがあつたという。今回、そうしたリスクを減らすため開発された。

機器の樹脂成型品の設計・開発を担当。使用されるワイヤー金型の開発だけで1年以上かかるといふ。今後は医療機器製造許可を得るべく、早ければ来春から処置具の量産に乗り出す。

同社は電子部品やメカトロニクス部品などの金型製作や試作品開発を手掛けている。6年前からカテーテル部品の試作品製造を受託するなど、医療機器分野に参入した。菅原正弘社長は「これまで医療分野は大きな仕事になつていかなかったが、地道に続けてきた。ここでようやく花が開いた」と話した。

ロボ関連技術を紹介 市内企業が共同出展

さがみはらロボットビジネス協議会は、10月17日まで東京ビッグサイト4に共同出展した。

ロボットの特区を進める神奈川県内の企業ゾーンに相模原ブースを設置。出展する市内企業は7社と1つの共同プロジェクト。介護から宇宙までの幅広い分野で、これからのロボット産業を支える市内企業の技術力を広くアピールしていた。

今回出展した企業は、コロナバス精機、中村電機、ミオ・コーポレーション、コプト、菅原モデル、マルマテック、EMOTEK、生活支援ロボット開発プロジェクト。

低炭素社会をめざして 星に願いを込めました。

いま東京ガスが目指しているのは、低炭素社会の実現です。その核となる取り組みが「スマートエネルギーネットワーク」。太陽熱・太陽光などの再生可能エネルギーを積極的に取り入れ、それらを天然ガスがバックアップ。不安定な再生可能エネルギーをガスコージェネレーションシステムと組み合わせ、未利用熱も活用しながら、地域で電気や熱を融通し合うことで、最適なエネルギー利用を実現します。

低炭素社会へ。
東京ガスは取り組んでいます。
<http://www.tokyo-gas.co.jp/>

エネルギー・フロンティア
TOKYO GAS

スマートエネルギーネットワーク
低炭素社会への近道を、
7つの星が教えてくれました。

低炭素社会

星座の位置はイメージです。撮影場所：長野・東京ガスの森